

民暴弁護士の寄稿文



【暴力団のリアルを知る】

1 はじめに

最近はやクザ（法律上では「暴力団」といいます。）をあまり見なくなったと言われていいます。私たち民暴弁護士も暴力団とやりとりすることは少なくなりました。暴力団に代わり、匿名・流動型犯罪グループ（いわゆるトクリュウ）、半グレ、悪質ホストなど半グレ集団が台頭しているのも事実です。

しかし、暴力団は依然として力を持ち、これらの新勢力の背後に存在するのが事実です。最近目にすることが少なくなった暴力団の特性や、半グレ集団（トクリュウ、悪質ホストなど）との関係について、参考となるメディアや資料を交えながら紹介したいと思います。社会全体で暴力団を正しく理解し、具体的な対策を知ることが、被害防止の第一歩となると考えます。

2 実際の作品

暴力団の特性をリアルに描いている漫画としては「闇金ウシジマくん」が挙げられます。特に「ヤクザくん」という章では、暴力団の実態が詳しく描かれています。作中に出てくる暴力団員の中には家庭環境の悪さや貧困を経験している者もあり、表向きは、家族のように仲間を扱い生きていくために助けあうかのように行動しますが（暴力団は疑似家族的な構造を持つと言われます。）、最終的には経済的な損得勘定に基づき行動し、不合理な暴力で問題を解決していきます。彼らは社会の中で孤立し、暴力団員同士の閉ざされた世界で生きるしかありません。その結果、内部抗争を繰り返し、最終的には破滅していくケースが多いことも作品を通じて伝わってきます。こうした描写はリアルであり、少年期に適切な福祉や居場所を提供し、犯罪に走る若者を減らすことの重要性を考えさせられます。

映画で有名なものは数多くありますが、『アウトレイジ』シリーズで描かれる暴力団の姿は、エンターテインメント性が強い作品（暴力団を美化している部分もあるかのように思います）ではありますが、リアルな側面もあります。暴力団独自の論理、不合理な暴力、破滅的な結果が続くなど、リアルな側面も多く描かれています。「暴力団は決し

て格好いい存在ではない」ことを理解できると思います。

暴力団員の生活はこれらの漫画や映画でも描かれているとおり、多くの暴力団員は経済的に困窮し、常に法の目を逃れる不安定な生活を送ることになります。

3 最近の動向を知るための資料

これらの漫画や映画にも描かれていますが、暴力団はいわゆる「シノギ」（資金獲得活動）によって組織を維持しています。捜査の目から逃れるために、半グレ、トクリュウ、悪質ホストなどを使って、様々な手口（闇金、特殊詐欺、強盗、違法風俗営業、薬物密売など）、に手を伸ばしています。特に、最近の報道でも見られるように、強盗や特殊詐欺の被害は深刻化しており、一般市民が標的となり、経済的・精神的に追い込まれるケースが後を絶ちません。警察白書（令和6年版）では、暴力団がこうした犯罪行為を巧妙に隠蔽しながら、一般市民に深刻な被害を与えている実態が報告されています。関心のある方はぜひご覧ください。

暴力団対策法（暴対法）や、各自治体が制定する暴力団排除条例（暴排条例）などにより、暴力団は以前よりも資金難に陥り、構成員も激減しています。しかし、弱体化した暴力団が資金獲得のために新たな手法を編み出し、法の隙間をつく新しいタイプの犯罪が登場しているのも事実です。こういった意味では暴力団（法律用語であり、オーバーグラウンドな表現でもあります。）は潜在化・マフィア化することで（海外の「マフィア」は法律用語ではありません。）勢力を伸ばしているともいえます。

4 最後に

暴力団や半グレ集団が市民生活に与える影響を最小限に抑えるには、みなさん一人一人が暴力団や半グレ集団の実態を理解し、どのようにしたら暴力団や半グレ集団が生まれないかを考え、実際に行動をすることが重要です。子どもの中に手厚く福祉の手を差し伸べることも必要かもしれません。もしこれまで紹介してきたような場面に遭遇したら、すぐに警察や弁護士など専門家に相談してください。

寄稿者

〒330-0845

埼玉県さいたま市大宮区仲町2-80-1

KS・Dio101

コモンズ法律事務所

TEL：048-640-1707

FAX：048-640-1717

埼玉弁護士会民事介入暴力対策委員会

弁護士 森田 智博

この原稿は、公益財団法人埼玉県暴力追放・薬物乱用防止センターが賛助会員に配信しているメールマガジン「埼玉県暴追センター通信No.195」から転記したものです。